

「日々の理科」(第 2023 号) 2020, -1, 23

「都心で見る星と ISS (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

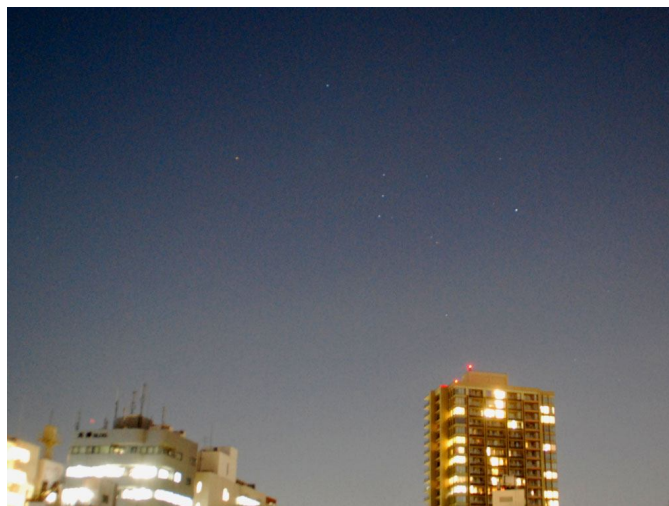
1 月 20 日・21 日の ISS 通過は、「日々の理科」
「Facebook」「LINE」「ツイッター」「児童へのプリント」などで、多くの人に知らせておいたので、その後
「観望した」「写真に撮った」などの反響があった。



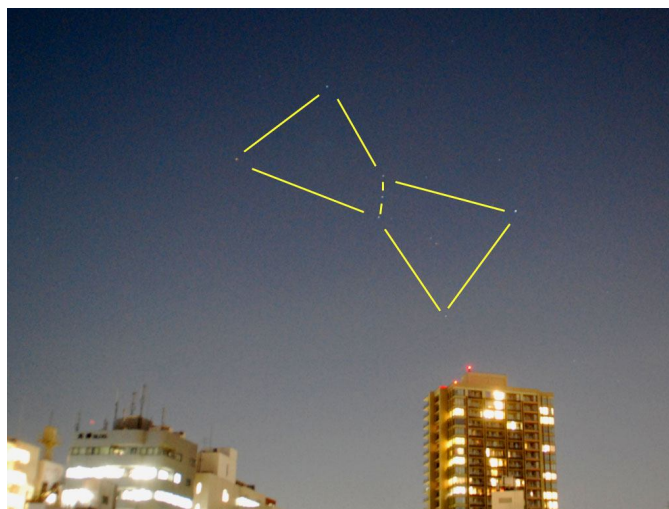
これは武蔵小金井（はけ）在住の友人撮影の、1 月 20 日撮影の ISS の様子だ。数秒ごとにシャッターを開ける・閉めるを繰り返し、光軌が点線状に写っている。この日の ISS は天頂付近で地球の影に入り「食」を起こしたので、最後の光軌が消えていく様子が面白い。空の明るい街中で撮った、見事な写真に感服した。



1 月 21 日の ISS の飛行は、更に条件がよかった。東京では地平高度（仰角） 84° と極めて高く、ほぼ天頂を通過する予報だった。幸い一日中快晴で、空の状態（シーイング）も抜群だった。ISS の来る前に、ピンと合わせテストも兼ねて金星の写真を撮ってみた。



時刻は 17 時 40 分頃で、やっと恒星が見え始めた時刻だった。本校の屋上から見ると、茗荷谷方面が東の空になるが、その上にオリオン座がやや傾いて昇ってくるのが見えた。



さすがにオリオン座は、都会地でもよく見える。7 個の恒星のうち、一等星が 2 個もあり、残りもすべて二等星だからだ。形も「リボン型」でわかりやすい。



18 時ちょっと前、ついに南西の地平線付近から、ISS の輝点が姿を現した。高度が低いうちはやや赤っぽい。